

「Why？」

私は、直感だけで動けるタイプで、
まず、やってから手応えを見ながら考えることが多い。

この記事もタイトルを思いついただけで書き始めている。

つまり、「直感」というヒラメキを信じて行動するので
成功のイメージがあって、
そのイメージを探りながら進めている
という構図。

「直感」をA Iで調べると
直感は、理由を意識しないまま一気に「分かる」「そう感じる」とあり
ただし、まったく根拠がないわけではなく、
過去の経験や知識が無意識に組み合わさった結果と考えられます。
と返ってきた。

つまり、「過去の経験や知識が無意識に組み合わさった結果」という
ことがキーであり、
全く何もない白地の状態からではヒラメキようがない
とも言える。

今回、「Why？」というタイトルをヒラメキ、
そのイメージを徐々に掘り下げている。

改善の標語に「Why⁵」（なぜ、なぜ5回）というものがあるが
これは起こった原因を表面から真因へ掘り下げる手法であり
改善の場合、殆どが自分で出来ることに突き当たる
という原理なのだ。

このように「Why⁵」は「現象」から「真因」を見出すのだが、
一方、「Why？」は自分の行動への裏付けを求める際に
今一度、「なぜ？」と問うてみる
という確信のための思索。

では、「なぜ、「Why？」を閃いたのか」と考えてみれば、
SNS時代でいろんな情報が飛び込んで来るのだが、
その情報の裏側が見えないことが多いので鵜呑みできない
という点もある。

情報に対して「Why？」と表面だけではなく
裏側や周辺を探るという姿勢が重要なのだ。

街の雑談では「Why？」と自問しながら聞かないと
誇張された情報に惑わされかねない
という現実がある。

雑談の域なので「聞き流す」ということもありかもしれないが
迂闊に相槌を打ってしまうと思わぬ展開にハマり込む
というリスクがあるのだ。

「尾ひれがつく」というが、
相槌が自分の意見に化けることもありえると弁えて
一瞬でも「Why？」と冷静になると
相槌も少しは違ったものになるのだ。

例えば、ご近所同士がいがみ合っている際に
親しい方が相槌を求めて味方に持ち込もうとすることがあり
「栩野さんも同じ意見だ」
と拡大することがあった。

私自身は「五分五分」と思っているけど
一方に肩入れしたことになるのだ。

親しい間柄であっても、
いがみ合っている相手もご近所であり
双方にそれなりの言い分があるので
少し距離を置くべき話だったのだ。

ともかく、地域社会に近づくと
巻き込まれないように用心する必要性を痛感したのだ。

現実的には「Why⁵」と掘り下げる必要がないケースが大多数で
殆どは「Why?」と一瞬でも立ち止まれば済むことなので
「君子危うきに近寄らず」
で一呼吸で間合いをとるようにしている。

そして、一呼吸置くようにしたら
自然と聞くようになり、自分で答える必要がなくなったので
ともかく「笑顔」で流すようにしたら
誰かが代わりに応えてくれるようになった。

つまり、他人に「言わされない」ように口を慎むことが
近所付き合いのコツと分かってきて
やっと、大人の仲間入りした感じだ。

ホンマ、何事も「Why?」と自問することが
大人の仲間入りしたことになったと
77才にして、自分の成長を誉めている
ホンマ、恥ずかしながらや！